

件下にある文京区のイメージを今回は或る程度具体的につかむことができたと思う。

榛名火山北東麓台地における 集落立地条件に関する考察

上 村 恵利子

(1) 目的

群馬県のほぼ中央に位置する榛名火山の北東麓（行政区域：渋川市）を調査地域とし、火山麓の乏水台地における集落立地条件を考察する。

(2) 枠組

最初に調査地域の簡単な概説を述べた後、地形・集落発達史・土地利用史・集落の形態と分布・農業・集落立地条件（気候、地形、地質、水文、交通路および位置、土地利用）等、以上の観点から考察を行なった。

(3) 結果

①榛名火山北東麓には、古期泥流からなる3台地が存在する。台地は標高260～480mで、開析谷によって5つに分断される。開析谷と台地の間は、最高120mの標高差のある急崖をなす。開析谷には6世紀にニツ岳から噴出した軽石流が流下し、降下軽石層が台地のほぼ全域を覆う。その厚さ1～3mである。

②台地は古代より秣場として使用され、放牧が行なわれた。人はなかなか住みつかず、明治になりようやく開拓され集落が発生した。その後は、第二次大戦直後の農地改革にもとづく開拓により、再び開拓され、新しい集落が発生し、現在に至る。

③台地には10集落存在し、いずれも農業を営む。兼業化が進み、りんご、酪農、畜産が主な都市近郊型の農業である。また、ニツ岳降下軽石を原料として軽石ブロック業が盛んである。

④集落立地条件について

・台地の集落の発生は降下軽石層の分布とその厚さに影響される。台地の中でも、降下軽石のほとんど分布しない2集落には中世から人が居たが、降下軽石が1m以上分布する他の集落は、明治になりようやく開発され集落が発生した。

・台地の地下水は深層・浅層の2層に大別される。台地に浅井戸（深度15.5mまでとする。）は開析谷に数個あるにすぎず、乏水地帯である。これは、台地という地形ばかりでなく、軽石流の堆積によって、更に乏水度は高まったと思われる。集落への井戸への依存度は当初より低く、川の上流や湧水から水をひいた。現在は簡易水道が敷設される。

・本台地は伊香保と渋川にはさまれた位置で、それらの町に近い。りんごはほとんどが伊香保の観光客に売られ、兼業農家の務め先は渋川市街地が多い。台地の地理的位置が農業に影響すると言えよう。

・台地はその性質から次の特徴をもつ。①隔絶性、②緑の自然環境、③広い土地、④伊香保と渋川へ近いこと。国立結核療養所、ゴルフ場、ゴミ焼却炉、公園などのように、台地の特徴をふまえた土地

利用や建築物がみられる。以上より、集落の立地はその発生時において地形や水などの自然条件によって規制されたが、現在は農業、土地利用、その地理的位置に影響される。

八ヶ岳北西山麓の農業土地利用

牛山 喜美子

(1) 目的

八ヶ岳北西山麓は最も進んだ高冷地農業地域と言われているが、冷涼気候と火山灰土壌はけっして農業に有利な条件とは言えない。この条件下で水稻栽培と、かつては養蚕業、現在に於ては洋菜栽培とが卓越している理由を、土地利用形態を視点として把握し、最終的には北西山麓全体の地域区分を行なうことを目的とした。

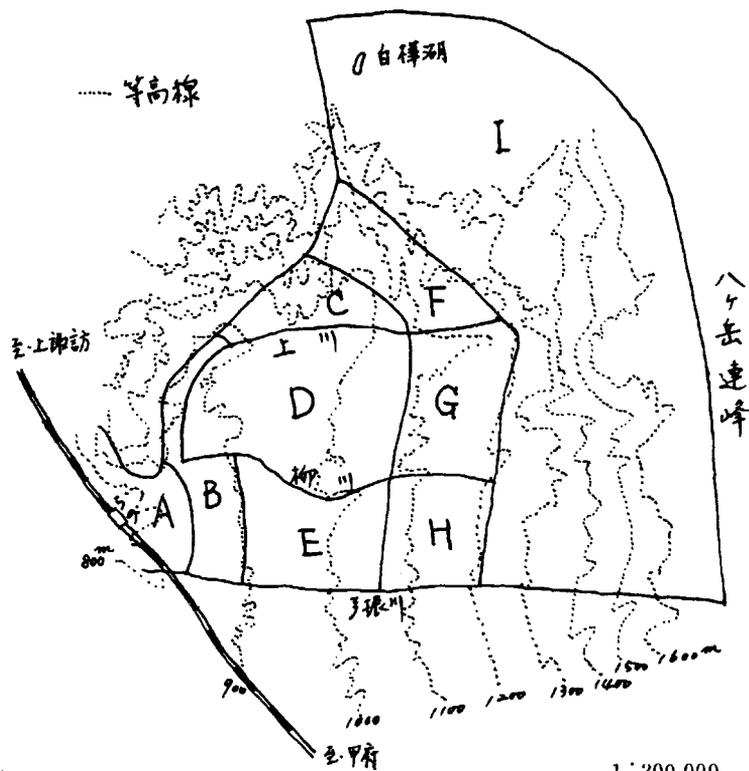
(2) 方法

研究方法は、文献研究に基礎を置き、現地での調査、観察、聞きとり、資料集めを中心として、これに実験を補足した。また論文構成としては、農業形態に於ける地域区分へ「自然」と「人文」の両見地から別々のアプローチを試みた。

(3) 結果

自然的見地からは地形、地質を指標として、地域の中央を西流する柳川を境に南の山浦地方、北の北山地方、更にその北、上川の谷床以北という区分が可能である。北西山麓ではすべての河川が西流するため、地形も自ら東西方向に細長い形状を示すので、この地形起伏に沿った南北性の稿状土地利用景観に特徴がある。

一方、人文的見地からは、
①水稲品種別作付限界線、
②農地転用と地価、③専・兼業率を指標としてとりあげた。この結果ほぼ等高線に沿った東西性の区分が可



八ヶ岳北西山麓の農業を中心とした地域区分